

第 3 回内丸地区再整備検討懇話会 意見及び対応

No.	発言者	意見概要	対応
1	岩手医大 小笠原委員	中間とりまとめでは 2050 年を目標としていたが、基本方針編で 50 年後に変わったのはなぜか。	中間とりまとめを令和5年3月に公表しておりますが、その後、各関係機関との協議を行う中で、個別の施設計画の作成には相当の時間を要し、2050 年までに作成することは難しいと考えたこと、また、現在の内丸地区の官公庁街は整備から約60年が経過しており、今後施設の更新等を図り、将来の内丸地区を描くには同程度の期間が必要であること、また、都市の機能やインフラなどが更新される周期を約50年と想定し、本プランの目標を 50 年後を目途としたものです。
2	岩手医大 小笠原委員	未来の計画であれば、若い人の意見を取り入れるべきで、それが無いのは筋が通らない。	パブリックコメントとは別の形で、若い方々の意見を取り入れる工夫を検討します。
3	岩手医大 小笠原委員	11 ページで人口が増えるように書いているが、人口は減っていく。地区ごとに 50 年後の人口推計、人口構成を出してほしい。	11 ページの記載は、中心地域と盛南地域の人口の推移の現状を示したもので、将来の人口が増加していくという記載はしておりません。また基本方針編に限らず、内丸地区将来ビジョン及び内丸プランは、人口減少の進行を踏まえて作成しておりますので、社人研が公表している盛岡市全体の人口の将来推計を図で追記いたします。
4	岩手医大 小笠原委員	未来予想、人口推計に基づかない計画は発表しないでほしい。人が外から来ると言っているが、現状の観光客の増減について、根拠を示してほしい。根拠のないものは認めない。	人口減少等を踏まえ、持続可能な都市の構築を目指すため、「盛岡市立地適正化計画」を令和 2 年度に策定しております。この計画を推進するため、中心市街地の都市機能を維持していくことが重要であり、内丸プランはこの考え方に合致するものです。 観光客の記述につきましては、内丸地区将来ビジョンにおいて、観光などによる交流人口の維持・拡大を将来のまちづくりの重視すべき視点として記載しており、内丸プランとしてもこの考え方を継承することとし、ビジョンの記載

No.	発言者	意見概要	対応
			<p>を転載したものであります。</p> <p>なお、観光客の推移につきましては、盛岡市ホームページに掲載しております「盛岡市統計書」に掲載されており、コロナウイルス感染症の影響で2020年に落ち込んだ後、回復傾向となっている状況と捉えております。</p>
5	テレビ岩手 池田委員	親水エリアは、洪水の恐れがあり、例えば護岸の嵩上げなど対策を検討する必要がある。	内丸プランは内丸地区の望ましい空間のあり方を主な目的として作成しており、中津川の護岸の嵩上げは念頭においておりませんが、行政機能が集積していることから、特に災害の対応力を強化することが重要な観点であると考えております。基盤整備や施設計画を立てる際には、この点を十分考慮する必要があると考えております。
6	盛岡財務事務所 千田委員	整備方針編は、市庁舎の建設に係る部分を先に策定するのか。	今後、各施設の聞き取りにより、施設更新等の動向がある街区から整備方針を策定していく考え方です。そのため、現在、更新を検討している市庁舎、県庁舎に係る街区について、第一フェーズとして整備方針編を検討していくものと考えております。
7	岩手日報 藤原委員	50年スパンの計画であり、温暖化対策等の観点が必要ではないか。暑くて人が回遊できないのでは。	今後施設計画が検討されていく中で、オープンスペースの緑化や敷地内の公共空地に日除けを設置する等も考えられます。今後、整備方針において検討し、必要に応じて基本方針にフィードバックしていきたいと考えております。
8	岩手医大 小笠原委員	パブリックコメントはどのように行うか。小中高大学生など若い方々の意見を取り入れて欲しい。	<p>パブリックコメントは、市ホームページ及び市の施設(支所、公民館等)で計画書を閲覧していただき、郵送、電子メール等によりご意見をいただくこととしております。また、SNS等を活用し、若い方々への周知を図って参ります。</p> <p>若い人からの意見については、パブリックコメントとは別の形で、工夫を検討してまいります。</p>
9	岩手銀行 菊地委員	民間事業者の目指す方向性、期待される役割について	今後、民間事業者の皆さんと連携してまちづくりを進めていくため、(仮称)盛岡市中心市街

No.	発言者	意見概要	対応
		て、今後、民間と連携したまちづくりに拍車がかかるよう踏み込んで検討してほしい。民間によるハード整備には限界があるため、民間のソフトの取り組みを引き出してほしい。	地デザイン戦略の作成を進めており、内丸プランも当該戦略と連動してまいります。
10	盛岡市商店街連合会 松本委員	大通り、肴町、大手先、本町などの商業者は、まちや歴史に愛着を持つ一方、商売になる場所・業態に移行していくものでもあるが、商業者も一体となり素敵な街にできるプランであると良い。	今後のまちづくりに取り組んでいく際に、参考とさせていただきます。
11	盛岡市商店街連合会 松本委員	プランで前提としている「盛岡らしさ」の資源は祭りなどのソフトの資源も含め、これまでの先人の積み上げであり、守っていく努力を怠らず続ける必要がある。そうでないとプランの前提が覆される。	「盛岡らしさ」を市民の皆さんをはじめ、多くの方と共有する必要があることから、内丸プランの周知に努めて参ります。
12	盛岡商工会議所 工藤委員	1 ページの下から 2 段落目「盛岡市の再興を目指して」の「再興」は適切でないのでは。「地域経済の地盤沈下という将来予測」の「地盤沈下」について、データに基づくものでなければ再考してはいかがか。	ご意見いただきました「再興」の記述は、現在において再興を目指していることを示しているのではなく、戦後に一団地の官公庁施設を制度化した先人が再興を目指したことを示す記述でしたので、誤解を与えないよう、「盛岡市の再興を目指して一団地の官公庁施設を制度化した先人にならい、」を、「盛岡市の発展を目指して一団地の官公庁施設を制度化した先人にならい、」に修正いたします。 また、「地域経済の地盤沈下という将来予測」の「地盤沈下」につきましては、ご意見を踏まえ、「縮小」に修正いたします。
13	盛岡商工会議所 工藤委員	4 ページの計画の体系図の関連計画に、盛岡市商業振興ビジョンなど商業関連計画も	ご意見を踏まえ、4 ページの計画の体系図の関連計画に、「盛岡市商業振興ビジョン」を追記いたします。

No.	発言者	意見概要	対応
		記載しては。社会経済の牽引には、商業関連計画との連携も大事である。	
14	盛岡商工会議所 工藤委員	6 ページ「魅力へのアクセス」について、交通結節点の移動手段確保は重要と思う。近年、公共交通が減少するなど動いているので、プランの検討と同時並行して現実的な対策を願う。	内丸プランの実現に向け、関連する交通計画と連携を図りながら、取り組んで参ります。
15	盛岡商工会議所 工藤委員	9 ページ「城下の風格と都心空間が調和するまち内丸」など、盛岡の良さとして歴史が記載されているが、「文化」についても、NY タイムス記事や、文化施設の集積もあり、また人流にも寄与すると考える。例えば「歴史」の記載を「歴史・文化」などとして文化も加えては。	ご意見いただきました9ページの記載は、令和4年3月策定、公表されております「内丸地区将来ビジョン」からの引用になりますので、このままの記載といたします。 17ページに記載のとおり、岩手県民会館等の文化施設が集積していることも、内丸地区の特長であると捉えております。ご意見いただきました「歴史」を「歴史・文化」への修正については、精査し直しましたが、文章の主旨が、変わってしまうことから、「文化」の文言を加える修正はしないこととしております。
16	盛岡商工会議所 工藤委員	27 ページや 32 ページに「さんさ踊り」が出てくるが、中央通りで行われるのは「盛岡さんさ踊り」であるので、「さんさ踊り」と「盛岡さんさ踊り」との表現は整理していただくと良い。	「盛岡さんさ踊り」に修正をいたします。
17	盛岡商工会議所 工藤委員	37 ページ以降のハード・ソフトの取組方策について、例とされているが、プランに書き込むと影響が大きいと考える。実効性や実現可能性について、調査検証が必要と考え	基本方針編は、約 50 年後を目途とした都市づくりの方針を定めるものであり、できるだけイメージできるよう例示を入れております。具体的な取組については、社会実験等を実施しながら、検証して参ります。

No.	発言者	意見概要	対応
		る。	
18	盛岡商工会 議所 工藤委員	55 ページの、内丸地区への鉄道・空港からのアクセスは官庁街へのアクセス需要があり、よろしく願います。	内丸プランの実現に向け、関連する交通計画と連携を図りながら、取り組んで参ります。
19	盛岡商工会 議所 工藤委員	1ページ「市民等が期待を抱くことのできる内丸プラン（内丸地区再整備基本計画）を作成します。」とあるが、内丸が何を目指し、どういう集積を目指し、だれに発信していくかが大事。経済の中心となる機能の集積に加え、医療など集積を目指す施設や、例えば温暖化対策や IT、AI など将来的な予測も盛り込み、県内外に情報発信し、県外からも新たに集積してもらうことを目指すことも一つの選択肢と考える。	内丸プランの実現に向け、関連する各種計画と連携を図りながら、取り組んで参ります。
20	岩手大学 南委員（座長）	1 ページの下から 3 段落目、「岩手医科大学の矢巾町への移転等による都市機能の離散」との記述について、内丸メディカルセンターの機能も一部残ることから「離散」ではなく「分散」などが良いのではないかと。	「岩手医科大学の矢巾町への移転等による都市機能の離散」を「岩手医科大学の矢巾町への移転等による都市機能の分散」に修正いたします。
21	東北電力ネットワーク 古舘委員	オープンスペースを多くすると建物が高くなると考えられるが、建物高さについては基本方針編で議論するのか、次の整備方針で個々の街区ごとに整備されていくのか。	建物高さにつきましては、今後作成する整備方針編において、検討して参ります。